

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

45周年記念 「みつがしわ」の特集「私の戦後71年」の原稿大募集!

編集委員にメール、FAXなどでお送りください、締切は7月末
1ページ分(1400字)か2ページ分(2700字)の分量で

45周年記念としては1年遅れの企画「みつがしわ」特集「私の戦後71年」を今秋には刊行します。皆さま、それぞれの思いで活動されてこられたことと思いますが、その思いを「みつがしわ」特集企画に是非お寄せ下さい。下記5人の編集委員のどなたかに、メールかFAXで原稿をお願い致します

原稿分量は1ページ分(1,400字)か2ページ分(2,700字)。締め切りは7月末です。編集の関係で、字数の調整は下記編集委員にご一任下さい。

- 小沼 Fax (3991)7087
i.konuma@jcom.home.ne.jp
- 森田 Fax (3951)0616
dmi_morita@yahoo.co.jp
- 轡田 Fax (3948)5129
rsc03465@yahoo.co.jp
- 立川 Fax
atkimi@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
- 田場 Fax (3991)9165
hitaba@jcom.home.ne.jp

(田場記)

第45回練馬・文化の会総会 45周年に向けて決意 永田浩三さんの「マスコミを操る安倍政権」講演会に45人が参加

5月28日(土)練馬区職員研修所で開かれた「第45回練馬・文化の会」総会は、安倍政権を取り巻く厳しい情勢のもと、文化政策はいっそう後退が進み、今こそ「平和なくして文化なし、文化なくして平和なし」の言葉の重みが重要になっております。

昨年1年間は、戦争語り部セミナー、フリートーク、沖縄問題、テレビみつがしわでは、「アスベスト」を取り上げるなど幅広い活動を進めてきました。その中で新たに数名の会員を増やすなど、前進面が見られました。

今年は、発足45周年目に当たり、「45周年記念誌」を刊行する計画であり、すでに作業に入っております。本格的な「45周年イベント」は、50周年に計画しております。

そのほか、秋には、「沖縄映画祭」の実施、フリートークなど、会員の声を反映した取り組みを実施していく計画であります。

総会の前に開かれた永田浩三先生の「放送メディアをメインにマスコミを操る安倍政権」は、サブタイトルに「大本営発表の始まりは戦争のできる国の仕上げ!？」の通り、高市総務大臣の国会での脅しの発言以降、一層萎縮を進めてきた、マスコミが、いったいどこへ行ってしまおうのだろうという問題を提起しました。NHKの「クローズアップ現代」の国谷おろしは、「放送の公平中立性とは、何か」を問われたし、マスコミへの攻撃、懐柔策は、決して国民に目を向けたマスコミになっていないことの危惧を呈しました。

マスコミを市民の手に取り戻すには、一つ一つの番組、紙面に、視聴者、読者として活発な活動積極的に参加し、意見を述べていくことの重要性を話し、それが、現場で働く職員、記者を一層、鼓舞、激励していくことになると思います。(森田記)

第45回練馬・文化の会美術会展(6月22から26日)に1500名が来館 出品者は128名、作品数は205点、「45周年」記念誌発刊(同封)

第45回の練馬・文化の会美術会展が6月22日(水)から26日(日)まで、練馬区立美術館企画展示室で行われました。今回の出品者は128名(うち初出品は7名)、作品数204点プラス遺作1点。来館者は1498名で、いずれも前回よりも少

し増えています。合評会は60名、懇親会は31名の参加。それに今回は「45周年記念誌」もお届けできました。美術会会員の皆さまのご協力のお陰で成功したと言えそうです。

(美術会運営委員長・吉田巳蔵記)

「練馬・みんなで選挙」(ねりせん)「VOTE FESTA」に500名参加

昨年の市民連合の声明、5党合意に基づいて、野党共闘を進めていこうという運動を、練馬の個人個人が集まって、この4月に結成した「練馬・みんなで選挙」(ねりせん)は現在200名の賛同者を得て、さまざまな、選挙活動を展開しております。

学習会は、「北海道5区補選の教訓」を朝日新聞の記者から、現地の生々しい状況を聞き、先日は、田中隆弁護士から「公職選挙法と選挙運動・政治活動の自由」の話を行いました。いずれも、参院選、都知事選に有効なサジェストであったし、総選挙に向けても大事な点が解りました。また、先日の「VOTE FESTA」では、練馬・文化の会会員の協力も得て、

平成つつじ公園に500名を集めて成功いたしました。音楽バンドあり、候補者の演説あり、フラダンス、ネパール舞踊あり、整体師のブース、パン、フリーマーケット、ビールなど企画が盛りだくさんで、1日中楽しめました。

7月3日には、「投票に行こう」のイベントを光が丘、石神井公園、大泉学園駅3駅で駅頭宣伝を行います。また、選挙管理委員会に向けては、期日前投票所の拡大、高校生、若者向けの宣伝についての要望などを行い、身近なところから「投票率をいかに上げるか」に頑張っています。総選挙に向けては、野党統一候補選出に向けて、政策協定の提案を進めています。

(森田記)

第10回被爆者の声を受け継ぐ映画祭 7月16～18日 武蔵大で開催

映画祭実行委と永田ゼミの共催による「第10回被爆者の声を受け継ぐ映画祭2016」が7月16日(土)～18日(月・祝)、武蔵大学1号館地下1002シアター教室で開催されます(同封チラシ参照)。広島・長崎の被爆、原発問題から平和行進のドキュメンタリーなど幅広いテーマ

が取り上げられ、上映される9作品すべてにトークかパネル討論つきという豪華なラインアップです。有原、永田両氏がトークなどに登場します。文化の会も後援しています。皆さま、是非ご参加ください。

(田場記)

9月24日～10月2日のえこだ沖縄映画祭の準備順調に進む

もあい練馬、江古田映画祭、練馬・文化の会共催による「えこだ沖縄映画祭」の準備が最終的な上映作品の選定に入り、8月にはチラシ作成ということで、準備が順調に進んでいます。初日の24日は武蔵大学で、沖縄ドキュメンタリー作品を作り続けた日本テレビ出身の森口豁さん

のトークショー、25日からはギャラリー古藤で8作品のドキュメンタリーを3回づつ上映する計画です。次号この「会だより」ニュースでは、チラシを同封しながら観覧お願いのPRをさせていただきます。

(田場記)

児童文学者 岡崎ひでたかさん 4月28日に逝去 享年87歳

会員の岡崎ひでたかさんが16年4月28日、練馬区の病院で逝去されました。享年87歳。日本児童文学者協会会員、楊名時太極拳師範、日本子どもの本研究会役員。文化の会では、「戦争と平和」をめぐる学習会や新年会などの場にはよく顔を出され、お酒などをご寄付いただきました。

最近では学習会で「大人でも読んでためになる戦争をめぐる児童文学書を執筆中」と語られたり、「実は病院を抜け出して参加した」とおっ

しゃられていたのが、今さらのように思い出されます。この「大人にもためになる児童文学」が16年5月に第56回日本児童文学者協会賞を受賞した「トンヤンクイがやってきた」です。今から考えると協会賞受賞の知らせを聞かれたのが病氣と闘っている最中、本当に劇的な遺作になったわけです。児童文学の世界とは縁遠い私ですが、戦前回帰の風が強まる中、まず「トンヤンクイ・・・」から紐解きたいと思っております。

(田場記)